

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2023年1月30日

【四半期会計期間】 第73期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 ホクシン株式会社

【英訳名】 HOKUSHIN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高橋英明

【本店の所在の場所】 大阪府岸和田市木材町17番地2

【電話番号】 072(438)0141(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 池本輝男

【最寄りの連絡場所】 大阪府岸和田市木材町17番地2

【電話番号】 072(438)0141(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 池本輝男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第72期 第3四半期 連結累計期間	第73期 第3四半期 累計期間	第72期
会計期間		自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高	(千円)	8,105,739	10,039,073	10,776,080
経常利益	(千円)	399,124	595,327	447,935
四半期(当期)純利益	(千円)	278,709	419,859	377,338
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)		-	-
資本金	(千円)	2,343,871	2,343,871	2,343,871
発行済株式総数	(千株)	28,373	28,373	28,373
純資産額	(千円)	5,460,911	5,803,332	5,535,486
総資産額	(千円)	14,453,126	15,871,743	13,604,167
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	9.83	14.81	13.31
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)		-	-
1株当たり配当額	(円)		-	4.00
自己資本比率	(%)	37.8	36.6	40.7

回次		第72期 第3四半期 連結会計期間	第73期 第3四半期 会計期間
会計期間		自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	5.07	2.60

- (注) 1. 当社は、第73期第1四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しているため、第72期第3四半期累計期間に代えて、第72期第3四半期連結累計期間について記載しております。
2. 第72期第3四半期連結累計期間は四半期連結財務諸表を作成しているため、第72期第3四半期連結累計期間の持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。
3. 第72期及び第73期第3四半期累計期間の持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社は、前第3四半期累計期間は四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期累計期間との比較・分析は行っておりません。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症による影響が徐々に薄れつつあり、社会経済活動の正常化が進んでまいりました。しかしながら国内外の新型コロナウイルス感染の収束はまだまだ見えず、長期化するロシア・ウクライナ情勢等、国際社会の混乱による原材料費やエネルギー費の高騰及び世界各国の金融政策による金利の変動により、依然として先行きについては不透明な状況が続いております。

当社と関係の深い住宅業界におきましては、政府による住宅取得に伴う補助金や減税などの優遇支援策の延長や住宅ローン金利が低水準で推移してきたものの、資材価格の高騰による住宅価格の上昇及び住設機器の納期遅れにより、新設住宅着工戸数は、4月から11月累計で前年同期比0.9%の減少となりました。

当第3四半期累計期間の当社業績につきましては、第2四半期までは輸入MDFの代替需要をはじめ、主力の建材用途及び、フローア-基材用途、構造用途の販売はいずれも好調に推移してきましたが、第3四半期に入り、新設住宅着工戸数は伸び悩み、それに伴い当社MDF販売量は減少いたしました。一方、原油価格と連動するエネルギー費及び接着剤費は大幅に上昇しましたが、販売価格への転嫁及び製造原価の抑制により収益を確保することが出来ました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は100億39百万円、営業利益は5億89百万円、経常利益は5億95百万円、四半期純利益は4億19百万円となりました。

また、当社の重視する経営指標であるEBITDAは8億38百万円とROIC（年率換算数値）は4.8%となりました。

$EBITDA = \text{経常利益} + \text{支払利息} + \text{手形売却損} + \text{減価償却費}$

$ROIC = (\text{経常利益} + \text{支払利息} + \text{手形売却損} - \text{受取利息}) \times (1 - \text{法定実効税率}) \div (\text{株主資本} + \text{有利子負債})$

ROICは法定実効税率を30.62%を前提として計算しております。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

資産

流動資産は、前事業年度末に比べて22億51百万円増加し、96億91百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金、電子記録債権、商品及び製品の増加によるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べて16百万円増加し、61億80百万円となりました。これは主に投資有価証券の増加によるものです。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて22億67百万円増加し、158億71百万円となりました。

負債

流動負債は、前事業年度末に比べて20億40百万円増加し、74億34百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金、短期借入金、1年以内返済予定の長期借入金の増加によるものです。

固定負債は、前事業年度末に比べて40百万円減少し、26億34百万円となりました。これは主に長期借入金及び退職給付引当金の減少によるものです。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて19億99百万円増加し、100億68百万円となりました。

純資産

純資産は、前事業年度末に比べて2億67百万円増加し、58億3百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費は、46百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	99,713,700
計	99,713,700

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年1月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,373,005	28,373,005	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	28,373,005	28,373,005		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年12月31日		28,373		2,343,871		

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2022年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 20,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,332,000	283,320	
単元未満株式	普通株式 20,405		
発行済株式総数	28,373,005		
総株主の議決権		283,320	

(注) 「単元未満株式」の株式数欄には、当社所有の自己株式47株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) ホクシン(株)	岸和田市木材町17番地2	20,600	-	20,600	0.07
計		20,600	-	20,600	0.07

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権2個)あります。なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含めております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役 上席執行役員	取締役 上席執行役員 経営企画室長	廣田 昌俊	2022年7月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

なお、当社は、前第3四半期累計期間は四半期連結財務諸表を作成しているため、四半期損益計算書に係る比較情報を記載しておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,674,079	1,641,485
受取手形及び売掛金	2,138,719	2,703,448
電子記録債権	1,566,713	2,509,886
商品及び製品	725,970	1,412,270
仕掛品	329,988	401,621
原材料及び貯蔵品	951,796	979,263
その他	52,589	43,098
流動資産合計	7,439,857	9,691,072
固定資産		
有形固定資産		
機械及び装置（純額）	1,684,051	1,671,378
土地	3,194,589	3,194,589
その他（純額）	674,490	682,518
有形固定資産合計	5,553,131	5,548,487
無形固定資産	12,410	14,683
投資その他の資産		
投資有価証券	583,513	591,167
その他	15,854	26,932
貸倒引当金	600	600
投資その他の資産合計	598,768	617,499
固定資産合計	6,164,310	6,180,670
資産合計	13,604,167	15,871,743
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,301,148	3,581,491
短期借入金	950,000	1,520,000
1年内返済予定の長期借入金	1,615,980	1,829,090
未払法人税等	133,618	96,994
賞与引当金	140,600	70,400
その他	252,459	336,166
流動負債合計	5,393,806	7,434,143
固定負債		
長期借入金	2,538,120	2,519,680
繰延税金負債	97,465	93,746
退職給付引当金	13,237	-
環境対策引当金	47	47
資産除去債務	11,512	11,512
その他	14,492	9,282
固定負債合計	2,674,874	2,634,267
負債合計	8,068,681	10,068,411

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,343,871	2,343,871
利益剰余金	3,122,091	3,428,541
自己株式	3,587	3,597
株主資本合計	5,462,375	5,768,814
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	51,069	56,405
繰延ヘッジ損益	22,041	21,887
評価・換算差額等合計	73,110	34,517
純資産合計	5,535,486	5,803,332
負債純資産合計	13,604,167	15,871,743

(2) 【四半期損益計算書】
 【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	10,039,073
売上原価	8,293,455
売上総利益	1,745,617
販売費及び一般管理費	1,155,976
営業利益	589,641
営業外収益	
受取利息及び配当金	18,051
その他	9,354
営業外収益合計	27,405
営業外費用	
支払利息	13,996
固定資産除却損	7,396
その他	327
営業外費用合計	21,719
経常利益	595,327
特別損失	
貸倒引当金繰入額	201
特別損失合計	201
税引前四半期純利益	595,126
法人税等	175,266
四半期純利益	419,859

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響に関する会計上の見積りにおいて、前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した仮定に重要な変更はありません。

(四半期貸借対照表関係)

1 受取手形等割引高

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
受取手形割引高	27,098千円	- 千円
電子記録債権割引高	361,642 "	- "

2 四半期会計期間末日満期手形等

四半期会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形等が、四半期会計期間末残高に含まれております。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
受取手形	- 千円	84,129千円
電子記録債権	- "	315,472 "
支払手形	- "	20,592 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	229,131千円

(株主資本等関係)

当第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月10日 取締役会	普通株式	113,409	4.00	2022年3月31日	2022年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、MDF事業の単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社の売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、財又はサービスの種類別に分解した場合の内訳は、以下のとおりです。

当第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

財又はサービスの種類別の内訳

事業部門等の名称	金額(千円)
スターウッド	4,949,116
スターウッドTFB	3,568,397
商品	1,510,698
その他	10,859
合計	10,039,073

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	14円81銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益(千円)	419,859
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	419,859
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,352

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 1月30日

ホクシン株式会社
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

大阪事務所
指定有限責任社員 公認会計士 酒井 隆一
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているホクシン株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第73期事業年度の第3四半期会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ホクシン株式会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。